

9月(平成17年度決算)議会でも熱く質問しました。

9月1日から27日まで9月定例会議が行われました。9月議会は昨年度の決算議会で、特別委員会ごとに分かれて審議をします。私は第2分科会に所属し、以下のように各局で多方面にわたり質問をしました。(スペースの関係で詳細に書けません。何かございましたら事務所までお問い合わせ下さい。)

1 環境局

- ・ごみ袋の形状について
- ・ごみの削減について
- ・生ごみ処理機の助成実績について
- ・屋上緑化壁面緑化の助成について

2 教育委員会

- ・発達障害特別支援教育について
- ・養護学校でのボランティア講座について
- ・ミルク給食について
- ・小規模校の今後について
- ・本市独自の心を育てる副教材について

大変残念なことに子どもたちのいじめや自殺が続く昨今ですが、もっともっと子どもたちの心を育てる必要性を強く感じます。そこで、学校教育の中で本市独自の心を育てる副教材を作成してはとの提案をしました。それに対し教育委員会からの答えは、10数年前に作成された道徳の時間に使用する郷土資料の含まれた冊子があり、それをさらに資料収集し、リニューアルして平成19年度に新しく発行する予定のことでした。ぜひ充実した内容のものを作りしっかり活用してほしいと思います。

- ・少年自然の家の改築について
- ・ファイナンスパークについて
(生活設計体験学習)

品川区では中学校施設内に、実際の生活空間を再現し、中学生が一人の大人として、家賃、食費、被服費、娯楽費、投資、預金など「生活をしていくために必要なお金（家計の収入や支出）に関する意思決定」を行い、自らの関心事や希望するライフスタイル等に基づいて将来の進路を体験的に考える学習を行っています。本市においても行ってはどうかと尋ねました。こちらはまだ前向きな答えではありませんでした。

3 保健福祉局

- ・児童虐待について
- ・育児版ケアプランについて
- ・育児講座を休日に
- ・妊婦に対する食育について

4 消防局

- ・大学生への消防団加入促進について
- ・乳幼児のための救急救命講座の開催について
(早速行われています。市政だよりやホームページで募集)

5 病院局

- ・市立病院の評価について
- ・産科体制のその後について
- ・市立病院の患者数減の理由について

事前勉強会では

2月の予算議会と9月の決算議会では自分の所属する委員会以外の所管する局についても事前勉強会でいろいろと意見交換することができます。こんなことを聞いたり要望しました。

- ・深町小学校の跡地利用について
- ・市の空き地の活用について
- ・防災計画の見直し
- ・北九州産業技術保存継承センターの利便性向上策
- ・すぐれた市民活動表彰制度の創設
- ・男女共同参画センター「ムーブ」の駐車場の利便性向上策
- ・市民会館などの施設の弾力的運用
- ・新空港他の路線の誘致状況
- ・若松南海岸線の延長整備
- ・響灘コンテナターミナルの今後などについて



市長質疑

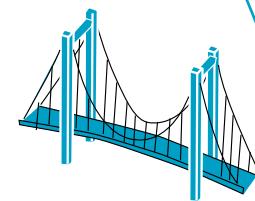
・発達障害の早期発見と早期療育、市民啓発の充実強化について

発達障害いわゆる自閉症や注意欠陥多動性障害（ADHD）学習障害（LD）の児童は、一般的には現在小学校1クラスに1～2人の割合でいることとされており、ご専門の先生によってはクラスに5人くらいいるとも言われます。

発達障害は脳の成長に伴い、発達の違いが顕著になり、対人関係でトラブルがおきやすく、パニックを起こしたりと、障害の発見が遅れれば、まわりから誤解され、過剰なしつけや虐待、いじめにもつながるケースも多いと言われます。そのせいで過剰な攻撃性を身につけてしまったり、うつ病や、行為障害という後天的な2次障害に陥る可能性も高いようです。また不登校や家庭内暴力、非行や事件につながることもあります。

反面発達障害には知能指数が人並み以上の人が少なくなく、記憶力が抜群によかったり、特異な才能をもつた人も多く、幼い頃に発見しその子に適した育て方をすることで、そのすごい才能を発揮したりといふこともあるようです。またそうでなくとも療育方法を工夫することですんなり育つケースも多いと言います。アメリカでは発達障害の子どもたちが、自ら障害を自覚しながら、夢をもつてある青年は教師をめざしたりまた医師をめざしたりと、現実に多く自己実現をはかっているとも聞きます。

そのためには発達障害の早期発見、早期療養が重要であり、いわゆる2次障害を生まないようにしなけれ



ばなりません。佐賀県では2004年にスクリーニングを導入、1歳半健診や3歳健診の際、前もって発達障害に特徴的な行動に関する問診表を送付しておき、当日持参、研修を受けた保健師さんが日常生活について聞き取ったり、積み木遊びや声をかけたりして反応を観察するということです。これにより疑いがある子どもが約5倍に増加、確かに「疑いがある」といわれた親のショックは大きいと思いますが、子どもの将来を考えたときやはり早期発見早期療育することが重要です。あわせて発達障害は周囲の誤解を招くことが多いことでつらい思いをしていらっしゃるご家族も多くおられます。

そこで発達障害の早期発見、早期療育の充実強化、社会全体で支える体制づくりについて、また社会全体に発達障害への理解の浸透に向け、更なる市民啓発について市長の見解を尋ねました。

市長は現状の取り組みを言われ、そのことを更に着実にやっていくというような答えで、あまり前向きな答えとは言えませんでした。今後大切な問題ありますので、ぜひ実現に向け更に取り組んで参りたいと思います。



お陰様であつという間に 1歳のお誕生日を迎えました。



日々時間に追われながら、あつという間にわが子晃一朗は1歳のお誕生日を迎きました。「人間は生まれてたった1年でこんなに成長するんだ」と正直子どもをもって驚きました。日々親やまわりを良く見ていて、いろんなことをスポンジのように吸収していることを強く感じます。何気なく言ったりしてしまった自分の言動を振り返り反省することもしばしばです。

今まで以上に被害者でも加害者でも子どもがかかる事件に、親として自分を重ねてしまい、涙したり怒ったりしながら二度と同じような事件を起こさないためにはどうしたら

よいのかと考えます。福祉や教育問題については、子育てを実際に経験することで特に気づくことも多く、議会で質問する時間が足りないくらいです。

仕事はある程度予定通り進めることができます。子育てはほとんどこちらの予定通りにはいかず、プライベートでは40年以上いわゆるマイペースで自由に時間が使えてきた私にとって、自分の時間がまったくとれず、赤ちゃんに振り回され、じっと待つことなど、今頃辛抱することを教えてもらっています。また子どもは何をするかわかりません。とり

あえずまわりの安全を確認し、ほん



の2～3分洗い物をして目をはなしすきに、子ども用のバッケの中のお菓子を出し自分で袋を破ってニコニコしながら食べていて、袋の小さなきれ端がどこにもなく、あわてて口の中に手をつっこんだりと冷や冷やドキドキの毎日です。高齢者介護は少なからず、祖父母合わせて20年間、在宅介護で母を中心に経験し、少しはわかるつもりですが、子育ては全くはじめての経験で、気をつけているつもりでも予測がつかないことがあります。想像力を働かせ使っていない脳に刺激を与えて頑張ります。